

都市化や農業の後継者不足から、首都圏でも耕作放棄地が増えている。千葉県匝瑳市では、太陽の恵みを発電と農業で分かち合い、耕作放棄地を再生する「ソーラーシェア」の取り組みが進んでいる。都市部と農村をつなぐ場にもしたいと、十八日には「収穫祭」を開く。



千葉・匝瑳市

秋の青空から降り注ぐ陽光が、一面に連なる銀色のソーラーパネルにきらきらと反射する。その下では、大豆が緑のさを膨らませている。匝瑳市飯塚の集落の外れにある「匝瑳メガソーラーシェアリング第一発電所」。三・二畝の広大な土地を見渡しながら、発電所を運営する市民

に、自然エネルギーを普及させようと決意。太陽光発電用地として目を付けたのが、全国の農地の約一割(一五・三%)に設置。一七年春から住宅五百世帯分の発電を始め、収益は年間五千万円に上る。あくまで農地のため土地利用は農業再開が条件になる。そこで導入したのが、ソーラーシェアの仕組みだ。

市民エネちばは耕作放棄地の地権者から土地を賃借し、一万枚の太陽光パネルを高さ三層に設置。一七年春から住宅五百世帯分の発電を始め、収益は年間五千万円に上る。あくまで農地のため土地利用は農業再開が条件になる。そこで導入したのが、ソーラーシェアの仕組みだ。

18日 食べて買って収穫を

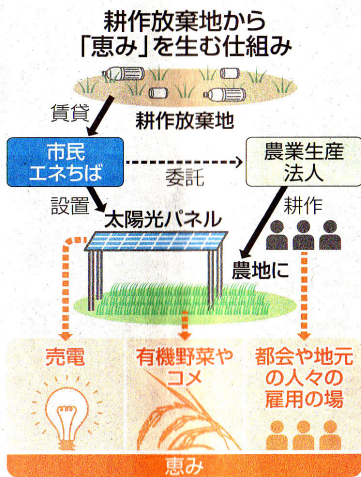
収穫祭は18日午前10時半～午後3時、匝瑳メガソーラーシェアリング第一発電所隣の草地で開催。入場無料。有機野菜を使った料理の屋台、地元農家によるマーケット、和太鼓演奏や収穫体験などがある。トークライブでは高坂さんや、ソーラーシェア発案者の長島杉さんも登場。会場へ



昨年、初開催された収穫祭＝市民エネちば合同会社提供

はJR総武線八日市場駅からタクシー約10分、車は銚子連絡道路の横芝光インターチェンジから約25分。農地のためカーナビでは正確に表示されず、グーグルの地図検索が便利。詳細はサイト(「市民エネちば」で検索)か、実行委員会＝電0479(85)6760＝へ。

荒れ地に日の恵み



ソーラーシェアリング農地に太陽光パネルを設置し、農業を続けながら発電する手法。農機具メーカーを退職した長島杉さんが発案した。2012年に、再生可能エネルギーの固定価格での買い取り先進県だ。

野菜、電気、雇用つくる



⑤ソーラーシェアを運営する東光弘さんと大豆を栽培する寺本利幸さん

④匝瑳メガソーラーシェアリング第一発電所＝本社へ1「あさひ」から、いずれも千葉県匝瑳市で



都会の人、歓迎

耕作や発電所運営には都会からの移住者を積極的に受け入れる。栽培した麦や大豆をビールやしょうゆに加工し、雇用を広げる計画だ。遊休地を活用して都会の人にコマ作りを教えるNPOソーサ・プロジェクトの高坂勝さん(右)も協力し、「田畑で半自給し、自然エネルギーもつくり出す次世代の暮らしを、この地域から提案したい」と話す。東さんたちは放棄地を次々と借り、これまでに七カ所を「発電所兼農地」に再生した。「何も生み出さなかった荒れ地が自然エネルギーと野菜、雇用まで生み出すようになった。この方式が広がれば、農村は変わっていく」。実った大豆が、手応えを物語っていた。

文・池尾伸一
写真・池尾伸一、市川和宏
紙面構成・安藤秀樹